

# 「分散登校」について

## 1 目的

新型コロナウイルス感染症によって休みの期間が長くなってきています。そこで、閉じられた場所の中でお互いに近づかないようにしたり、感染予防をしっかりと行いながら、児童生徒の心と体の健康状態やどのように勉強しているのかを把握して、適切に指導します。そして、新学期に向けて生活リズムを少しずつ整えていくために、学校の大きさによって、学年や学級または地区ごとに分けて児童生徒に登校してもらいます。

## 2 内容

### (1) 児童生徒の状況を観察する

- ①生活リズムの確認やストレスがあるかどうか、健康状態などを把握する
- ②教育相談窓口（学校の担当の先生、子ども相談支援センター）を知ってもらう

### (2) 勉強のやり方を教える

- ①新型コロナウイルス感染症にかからないための勉強
- ②家庭でどのように勉強しているのか確認して、勉強のやり方を教える
- ③宿題や勉強に役立つ資料の提供

## 3 分散登校のやり方

### (1) 児童生徒の健康状態

- ①風邪をひいている児童生徒は、登校させない
- ②喘息などの基礎疾患がある児童生徒は、無理に登校させない

### (2) 登校日について

- ①普段の授業とは違うものなので、学校に来た日として数えない
- ②学年が終わった時の休みや学年が始まる前の休みに登校する日を作ることもできる

### (3) 場所について

- ①マスクがない場合、児童生徒の間に前後左右2mくらいのスペースを確保すること
- ②体育館、地域の会館や集会所などの公共施設を使っても良い
- ③空気の入れ替えや清掃、消毒をしっかりと行う

#### (4) 時間

しばらくの間、週に1回60分ほどの短い時間で授業をする

#### (5) 登校の方法

- ①登校、下校をする時は、教職員が出入口で児童生徒を案内して、児童生徒同士ができる限り会わないようにする
- ②児童生徒が学校に入る時には、「健康観察シート」を確認して、必ず体温測定をしてその日の健康状態を把握する。そして、すぐに手や指の消毒や手洗いをさせる
- ③一日に何回か登校させる場合は、登校させる時間をずらして、児童生徒同士ができる限り会わないようにする
- ④スクールバスを使う場合は、会場と同じく児童生徒の間に十分なスペースを確保する
- ⑤公共交通機関を使う児童生徒がいる時は、混んでいない時間に登校させる
- ⑥児童生徒が登校、下校をする時は、PTAなどに協力してもらいながら、児童生徒の安全を確保する

#### (6) 高等学校の生徒と特別支援学校の生徒について

高等学校は、通学範囲が広いが、メールなどで指導ができる。また、特別支援学校は児童生徒それぞれの対応が必要になる。そのため、「分散登校」のやり方については別でお知らせする。

#### (7) その他

- ①最初の分散登校日は、児童生徒が感染予防についての正しい知識を学んで、正しい行動ができるように、手や指の消毒、または手洗い、咳エチケットについて指導する
- ②欠席した児童生徒がいたら、学校は電話などで保護者や児童生徒に今の状況を必ず確認する
- ③その日対応する教職員などの健康状態をしっかりと確認する
- ④臨時で休みにしている間の修了式や進路指導（中学校3年生が中学校を卒業した後の進路指導を含む）も同じようにする

ぶんさんとうこうび  
「分散登校日」のイメージ

(例1) 学年別に体育館で行う場合

3月9日(月) 1学年～4学年が対象になる場合

時間	対象になる学年	人数	場所
9:00～10:00	1学年 1・2組	60名	体育館
10:30～11:30	2学年 1・2組	60名	体育館
13:00～14:00	3学年 1・2組	60名	体育館
14:30～15:30	4学年 1・2組	60名	体育館

3月10日(火) 5学年、6学年が対象になる場合

時間	対象になる学年	人数	場所
9:00～10:00	5学年 1・2組	60名	体育館
10:30～11:30	6学年 1・2組	60名	体育館

(例2) 学年を混ぜて各地区の公共施設を使って行う場合

3月9日(月)

時間	対象になる地区	人数	場所
9:00～10:00	●●地区	20名	●●地区センター
9:00～10:00	■●地区	25名	■●住民センター —
13:00～14:00	○○地区	10名	○○住民センター —
13:00～14:00	△△地区	30名	△△地区 体育館

※ 児童生徒の間は、前後左右2メートルのスペースを確保する(マスクがない場合)